

第10回鳥栖市総合教育会議 議事録

会 議 名	第10回鳥栖市総合教育会議
日 時	令和元年年5月8日(水) 開会 午後 1時10分 閉会 午後 2時59分
会 場	市役所3階第1委員会室
公 開 ・ 非 公 開	公開
出 席 者	構成員：橋本市長、天野教育長、古澤教育委員、戸田教育委員、 副田教育委員 事務局：古賀教育総務課長、眞子教育総務課総務係長 説明員：中島学校教育課長、松隈生涯学習課長兼図書館長 古賀学校教育課参事兼課長補佐兼指導主事、 立石学校教育課長補佐兼学校教育係長 久山生涯学習課文化財係長 築地学校教育課学校教育係主査
傍 聴	0人
協 議 事 項	◆平成30年度実施のコミュニティ・スクールの実績と課題について ◆中学校の完全給食への今後の展望について ◆文化財の保存と活用について
発 言 者	内 容
古賀教育総務課長	はい、それでは皆さん、改めましてこんにちは。定刻となりましたので、ただいまより、第10回の鳥栖市総合教育会議を始めさせていただきます。本日御議論いただく協議事項につきましては、平成30年度実施のコミュニティ・スクールの実績と課題について、中学校の完全給食への今後の展望について、文化財の保存と活用についてでございます。進行に当たりましては、橋本市長にお願いすることになりますので、橋本市長、どうぞよろしくお願いたします。
橋本市長	皆さんこんにちは。今日はお忙しい中、総合教育会議にお越しいただきましてありがとうございます。また今年度もよろしくお願申し上げます。今日の議題は、昨年度基里小中学校で始めましたコミュニティ・スクール、その実績と評価で、じゃあそれを受けて、今後どのようにしていくのかという御議論をいただきたいのが一つ、それから、中学校の完全給食への今後の展望についてということ一つ、それから、今まで学校関係が主なことでできておりましたので、ちょっと内容を変えて、昨年明治維新150年ということで幕末維新博をやりましたけれども、そこに合わせて磯田先生にお越しいただいて、文化財の保存と活用について御示唆いただいておりますので、そういったことで今後の文化財の保存と活用について御意

	<p>見を賜ればと思っております。順次進めてまいりますのでよろしく お願いいたします。</p> <p>まず基里小中学校で行いましたコミュニティ・スクールの実績報 告を事務局からお願いいたします。はい、どうぞ。</p>
古賀学校教育課参事	(資料に基づき説明)
橋本市長	はい、ありがとうございました。資料の2ページの上から3行目 の「2教科で実施した」とありますが、この2教科って何でしょう。
古賀学校教育課参事	失礼します。この2教科につきましては、中学校の数学と英語、 この2教科になっております。以上です。
橋本市長	はい、ありがとうございました。今の説明に御質問とかございま したら。はい、どうぞ副田さん。
副田教育委員	1ページの「地域で育てる」のところで、「大人としゃべり場」と いうとても興味深いものがございしますが、これはアトランダムに雑 談形式で行うのか、あるいはテーマを決めてお話をするのか、そし て、どれぐらいの時間話すのか教えてください。
橋本市長	はい、それぞれお願いします。
古賀学校教育課参事	<p>はい、失礼します。これはですね、かなりの人数を要しまして60 何名の地域の方々が1回り、回転しながらそれぞれ時間を決めて、 長時間ではございませんが、時間が来たら次の方とぐるぐる回転し ながらやっていく取り組みというふうに伺っております。</p> <p>今年度、これは一つのテーマをもとにというのもあったかと思 います。一つのテーマをもとにそれぞれ大人と中学生が会話をし ていくというふうな流れになっておりまして、今年度のテーマ等につ いては把握しておりませんが、テーマをもとにやっていくというもの でした。こちらが先ほど言いましたように、まちづくり推進センタ ーの方々を中心として人選に当たっており、もし所定の人数、生徒1 人に対して大人1人を考えておりますので、足りない場合について は1人の大人が2人の生徒を対応するというふうに伺っております。 すいません。お答えになってますかどうか分かりませんが、以上で す。</p>
橋本市長	よろしいですか。
副田教育委員	はい、ありがとうございます。
天野教育長	<p>今度の6月9日は鳥栖市教育の日で、これは年に1回や ってるんですが、そもそも中学生があまり地域に出たが らないということもあつたり、地域の方と話をする機会 が少ないということで、地域の方に見に来ていただき てテーマを決めてぐるぐるみんなで回って話を するということをします。これは非常に効果があつて、 地域の方も喜んでおられるということです。こういった ことをまちづくり推</p>

	<p>進センターの方でやっていたのを、学校運営協議会も協力していこうじゃないかということで今度ここに書いていただいて、地域で育てる一つの方向だと。だから子供たちもですね、将来の夢はとか、挨拶についてどう思いますかとか、基里のことについてどう思いますかとか、そういったことでテーマごとに決めて、それぞれがアトラダムにしゃべっていき、終わればまた回っていくということで、これは随分いい取り組みだというふうに思ってますし、子供たちも喜んでます。そういうことです。追加です。</p>
橋本市長	<p>どういうふうに喜んでるんですか。子供の喜びと地域の方の喜びそれぞれについて。</p>
天野教育長	<p>地域の方は、子供としゃべることができた、中学生とよくしゃべることができたということをおられました。学校の先生方から見ると、なかなかしゃべれない子供たちも地域の方々を前にしてそのテーマについて話すことができて、それから褒められる、地域の一員として認められているとか、そういったことで非常に喜んでるという話を聞いてます。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。そういう説明でよろしいですか。</p>
副田教育委員	<p>はい、顔なじみになってとてもいいと思います。ありがとうございます。</p>
橋本市長	<p>最近また〇〇委員制度って始まりませんでしたか。この前、決裁をしたような。それで学校評議員というのがあってみたり、諸々あるじゃないですか。結局よくあるのが、出てみえる方はほとんど同じ方で、今日は何の看板でしたっけっていうものも結構多くて、だから一つ心配なのが、こういう色んなことを始めることによって学校の負担が増えるんじゃないかということです。この準備のために学校の組織がいるとかあるので、その準備のためとか報告書とかいろいろあって、ますます学校の負担が増えていって、本来の事業とそこら辺の力の分散というか、そこら辺の懸念っていうのはいかがなんでしょう。</p>
古賀学校教育課参事	<p>失礼します。これを導入したことによって負担感が増すんじゃないかというところで捉えるならば、各現地視察をしたところも、他のところで情報を得たところも、確かに導入の最初につきましては初めてのことが多いので、負担感は少しあるかもしれないということでした。ただ、軌道に乗ったときにこれまで教員がやってきたことを地域に任せることができる、先ほどの見守り隊もそうですし、学校行事に対してのお手伝いもそうなんですけれども、そういった面で軽減されていく、そうするとトータルで考えたときに楽になったっていう報告を聞いております。最初は確かに市長さんがおっしゃ</p>

	られるように負担感が少し増すかもしれませんが、軌道に乗せることによって最終的にトータルで考えて軽減されるものというふうに捉えております。
橋本市長	はい、力強いお言葉ありがとうございます。これ、先ほど2教科で数学と英語ってことですが、これは先生の免許をお持ちの方のお手伝いをいただいたということでしょうか。
古賀学校教育課参事	まず数学につきましては、私が知る限りで申し訳ないんですが、免許を持ってある方というところで捉えております。もう1人英語については、すいません、そこまで把握しておりません。持っていらっしゃるかどうか分かりませんが、地域の方のボランティアで参加してくださってる方ということになっております。
橋本市長	このコミュニティ・スクールについていかがでしょう、戸田先生。
戸田教育委員	今後の課題の最初に、「地域学校協働本部」これが必要なんだという話だと思うんですけども、恐らく下に書いてあるような実際に地域で活動していただける方を探したり、間をつないだりする役割を果たすわけですね。これがない現状において、この役割はどこが担っているのでしょうか。
古賀学校教育課参事	はい、失礼します。現状としましては、学校外から参加してくださっている方々、区長会会長さんであったり、PTA会長であったりというところを取りまとめているコーディネーターという方がいらっしゃいます。このコーディネーターが、必要に応じて学校運営協議会の中で相談もしますので、それを区長会におろして広めてもらうとか、PTAの方ではこんなことがお手伝いできるだろうか、PTA会長としてPTAの中で組織をつくってくださるとか、そういうところになっております。
戸田教育委員	他の先進的などころでは、この協働本部、これはどんな人が担っているのでしょうか。
古賀学校教育課参事	結局この本部というのがさまざまな活動をされている方々の代表の集まりというところで捉えていただければいいかなと思います。あと、先ほど言いましたけれども、地域学校協働本部はいろんな方の呼びかけがあるかと思います。例えば、社会教育団体みたいなところが統括をされて地域のそういった組織を作って、学校とのつなぎ役としてコーディネーターがいて、そのコーディネーターの方が学習に応じた方々に声をかけていただいています。例えば茶道であれば、習っている人に声をかけたり、読み聞かせであれば読み聞かせの団体がいらっしゃいますので、そこに声をかけるとか、そういうところでやってあるというところが現状ですね。
橋本市長	ありがとうございます。はい、どうぞ。

<p>天野教育長</p>	<p>今回運営協議会のメンバーを見たときに、運営協議会の中でいろいろ意見が出てそれを実際に行動に移して動くときに、人をお願いしなくちゃいけないというところですね。そこの下部組織じゃないけども、ボランティアで動いてもらえる方々が必要だよって意見は出てるんですよ。やっぱり見て一番中心になるのは、ここでいくと5番のPTA会長が小中両方やられてるんですけど、PTA会長がコーディネーターの役割を担ってもらってるんですよ。「コミュニティ便り第2号」っていうのがこの資料にあるんですけども、大石さんがコーディネーターということで編集してあるということなんですけど、こういう方々がいかに活動するかということなんですよ。これだけ活動してもらえればその地域学校協働本部もなくともいいのかもしれないけども、やっぱりコーディネーターの役割は非常に大きいですね、さっきちょっと古賀参事のお話にも出た地域活動の協働活動推進員もさっき市長も言われたんですけども、そういった形の制度があるんですよ。実は社会教育の方ですね。そういう方々は、国の方からの予算がこれ半分か3分の1だったと思うんですが、県のまなび課から依頼があつて、僕も実はこれは最近知りました。決裁を持ってきたときにこういうのがあるんだなあということで。そういった組織もあるので、そのコーディネーターができる人をこの学校運営協議会とは別に協働本部の方々が入られるとよりうまく動くなというふうに思ってますので、今年1年間やってきて、いろんな意見は出てるけどやりたいことがいっぱい出てくる。しかし市長さんが言われたように学校現場からしてみるとそれだけで多忙化になってしまうんですね。だからそういった目で見ると、やっぱり人がちょっと少なかった部分もあるのかも分からないし、そういった地域のことをよく御存じの地域コーディネーターの方がおられればうまくいくのかなあということですので、今後の方向からいくと、県のまなび課から依頼があつた地域学校協働活動推進あたりをですね、今これは実際ですね、市の職員がなってるっていうことでしょ。2人。八尋さんと何とかさんがなってるっていう話を聞いたんですけど、だから、そういった方々が、結局方向は一緒なんですよ。この学校運営協議会の人とそういったことも含めてやっていったらということで、古賀先生よかですかね。それでそういうふうなことで。</p>
<p>古賀学校教育課参事</p>	<p>先ほど教育長の方が言いましたように、何をするか、どこにどう頼むかで、両車輪という言い方を先ほどさせていただいたのは、やはりそこは連携を図りながらやっていく必要があるっていうふうなところです。推進員というところ、先ほども言いましたコーディネ</p>

	<p>ーターというのが間をとりながら動いていく、そのためには、先ほどから出ておりますが現在生涯学習課の方で設立とか、きちんと整理をしていただいている地域学校協働本部のところの整備というのが急がれます。その整備と連携がうまくいけば、働き方改革の観点からも軽減が期待できるというところで考えている次第です。よろしかったですかね。</p>
橋本市長	<p>ちょっと質問なんですけど、コミュニティ・スクールを1年間走ってみてのお話を承りましたけれども、例えば、私は地域の方から伺うのはやっぱり地域、学校のことを手伝いたいという強い思いをお持ちの方がたくさんいらっしゃるんですね。でも私のすることはしてくれないもんねって言われるわけです。</p> <p>あと、多分先生方も毎年人事異動があつて変わっていきますよね。そのときに、去年はこれをしました、今年はって言ったときに継続してするものなのか、あるいは毎年練り直してやっていくものなのかというようなところ、これからその交通整理が大変なんだろうなと思うんですけども、そこら辺どういうふうに考えていくんでしょう。</p>
古賀学校教育課参事	<p>確かに、市長さんがおっしゃられるように、地域の方々が学校の協力をしたいという思いは強いというのは聞いております。個人個人が抱いてあるものと学校が求めているものが合致すればうまくいかなと思うんですが、学校側が何を求めているのかっていうところをまず考える必要があるかなと思います。今年度やったんだけど、次の年となってくるとその活動内容が変わってきているのかなっていうところが考えられるわけです。この学年に必要なもの、この子供たちに今必要なものっていうのはやはり子供たちの様相や実態によって変わってきますので、そういったところで去年はあつたんだけど今年はないっていうところは出てくるのかなと思います。もちろん一貫して毎年行うものもあれば、そういうふうに子供の実態に即したものの内容を充てていくっていうところもありますので、全てを継続していくっていうところは難しいかなというふうなところで捉えております。お答えになっていきますでしょうか。</p>
橋本市長	<p>別に継続してくれと言ってるわけでも何でもなくて、どういう考え方でこれを動かしていくんだろうなというところがあつて聞きました。それで、ある吟詠をやってる方から聞いたのは、小学生のときに学校で吟詠を教えて、やはり中学生になって塾とか部活が忙しくなつて吟詠はやめたんだけど、その子供さんが高校生になつて今年総文祭がありますよね。総文祭に私は吟詠で出たいんだということでもう1回教えてくれと言いに来たんだとえらく喜んでいら</p>

	<p>っしやいました。だからその意味では小さいときに種まきをしていて、どこかでまた芽を出す可能性もあるなどという思いがあって、さまざまな取り組みがこういう世界もあるんだよっていうのを見せてあげるって役目も我々にはあるのかなという気もしております。そこら辺の取り入れ方が難しいなと思いつつ、せっかくコミュニティ・スクールはいい取り組みだと思いますので。</p>
<p>天野教育長</p>	<p>はい。小学校の方で、4つの視点を挙げてもらいまして「環境整備」「安全確保」「行事体験」「学習支援」でやりたいという思いが非常に強くて、学校運営協議会にも提案されたし、それから学校代理人も出していただきました。その中で一番やって欲しかったのは「安全確保」ということで、4つの見守り隊が立ち上がってやっていただいています。</p> <p>昨日も校長先生にどうですかって聞いたときに、学校運営協議会の中でいろんな意見がたくさん出るそうです。今後やりたいのは、ある委員さんから体力向上という意見があったので、体力向上は非常に子供たちにとって大事だからやりましょうということで共有といますか、その辺りは学校運営協議会がやっていくということです。その中で、見守りは本当に効果が上がっているということです。それから例えば田植え等の支援については、これはなかなかうまくいかなかったんだそうです。昨日話を聞いたら枯らしてしまったそうで、そういったところでやっぱり運営協議会と学校側と意見をお互いに言いながらですね、協議をしながら新しいものをつくっていく場合はお願いをして、地域でこういう方がおられますよっていうところで、本当言うとPTAに頼むんじゃなくて、さっき言ったように地域コーディネーターがおられて、その地域コーディネーターにもっと動いてもらえるようになれば、このコミュニティ・スクールはもっと上手くいくんじゃないかなって感じがするんですよ。そういう意味で、やっぱり今市長さんが言われたように、そういう地域の声がたくさんあることはしっかり分かっていますし、あとはその整理をいかにしていくかっていうとこだと思います。</p> <p>しかし、1年間見てきた中では、これだけやっただけでも大したものだなというふうに思っています。中学校がなかなか小学校のように上手くいってないっていうのがあります。コミュニティ・スクールで放課後の補充学習において2教科を実施するということですが、学校側としては講師がほしいんですよ。放課後の補充学習をしてもらおう先生方が足りないものだから。しかし、簡単にはおられないということで、どうにか探してお願いをして見つけて来ていただいたということなんですけども、そういうことで、一つ一つやっ</p>

	ていくというふうなことじゃないかなというふうに思ってます。以上です。
橋本市長	はい、ありがとうございます。これは、横展開といいますか他のエリアに広げていく予定っていうのはありますでしょうか。
古賀学校教育課参事	失礼します。今後のこの組織の拡大につきましては、現在計画をしている段階でございます。来年度につきましては、1中学校区拡大しようかというふうに考えております。その学校につきましては今検討をしている段階というところです。令和2年度が1中学校区、令和3年度に全ての中学校区に広げられないかというところで、現在検討をしているところです。以上です。
橋本市長	やはりこれは人ありきで、人が見つからないとできないということなんですかね。
古賀学校教育課参事	現在の状況を考えたときに、既にその様相を呈しているような中学校区もございます。人はもちろん必要ではございますが、今ある人材というのをいかに活用していくかっていうところが一つ大きなところなのかなというふうに考えます。それと、いかに周知を図り、いかに必要性を訴えていくかっていうところになってくるかなと思います。以上です。
橋本市長	はい、ありがとうございます。古澤さんいかがですか。
古澤教育委員	<p>コミュニティ・スクールを導入するときに、下関とかに視察に行きました。昨年も宮崎に行ったんですけど、成功してる例ということでお聞きしたときに、どちらも中心になるのはコーディネーターの方で、どれだけ優秀な人を配置できるか、その方が例えば学校のニーズ、こういったことをやりたい、じゃあ地域にこういう方がいらっしゃるといったつなぎ役をきちっとしていただいたり、また、運営協議会の中で意見として出てきた部分を、これだったら学校のこの先生に個別にでも対応してもらうことができるんじゃないかなとかいうお話等もあってました。実際、宮崎ではコーディネーターの方にもお話を伺わせていただいて、この人ならできるだろうなというふうな方でした。恐らくそっくりそれをまねする必要はないんですけど、基里なりのやり方でいいと思いますし、徐々にできつつあるんじゃないかなというふうに思っているところです。</p> <p>その他に報告の中にありましたし、先ほどの定例会の中でも申し上げましたが、市内で多くの見守り隊ができて活動されている中で、基里になかったというのが私はあんまり知りませんでした。それが立ち上がっただけでも、負担感からすればとてもよかったんじゃないかと思います。地域の方からすれば、天気の良い日ばかりじゃありませんから御苦労が続くのかなと思いますが、親御さんにし</p>

	<p>でも、学校から放課後送り出した先生方にしてもですね、地域で見守ってもらってるということはものすごく安心感があると思います。</p> <p>そして「大人としゃべり場」っていう話があったんですけど、見守り隊の方達が子供たちに声かけをされてるんですね。子供もきちっと挨拶をするし、「今日遅かったね」とかいろいろ話されてるのを聞きます。「〇〇ちゃんがまだ戻ってきてないからちょっと心配」とかいうふうな話や、忘れ物をしたり落とし物をしたからと一緒にあって捜し回ってる方も何回か現場で見たことはあります。これは非常にいい取り組みだろうと思いますし、継続してやっていただけたらなと思います。他の成功事例等も木村校長なんか頭にしっかり入ってあるわけですから、これからも取り組みが順調に進んでいくんじゃないかなというふうに思ってます。</p> <p>それと地域学校協働本部というのは、国がこれからこういったことをやりますよって言ったときに、将来的にはこういったのを設置しなさいって義務づけがあったような気がしますので、しっかりとそういったのもスムーズに立ち上げていけたらいいんじゃないかなと思ってます。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。では、ここはもういつも申し上げますけど、成功体験をしっかり作って、そこから小さな成功を積み上げていくのが大変重要だと思いますので、焦らず地域に根差した活動として進めていただければというふうに思います。特に無いようでしたら、次にいきます。</p> <p>中学校の完全給食への今後の展望についてということで、これは、はい、じゃあ教育長の方からお願いいたします。</p>
天野教育長	<p>中学校の完全給食についてはですね、以前からいろんなところで協議をさせていただいてます。やるという方向性はある程度決まっているという認識もありますけど、過去の協議の中ではやっぱり食数をまず増やすべきだろうとか、それから、中学校の完全給食の必要性とか緊急性とか、そういうことがまだ見えてないというふうなこともありました。しかし、今はもう食数も増えましたし、今後の施設設備等についてもいろんな課題が出てきているというところで</p> <p>す。</p> <p>それから、全国も中学校の給食率が86%ぐらいきてるというところを踏まえた段階で、今後の方向性としてもうスタートの部分といいますか、ある程度その辺りからやっていこうじゃないかっていう時が来たのではないかなという気がしてます。横着な言い方してますけれども、しっかりスケジュールを立ててやって行く時は来たん</p>

	<p>じゃないかなっていう考えもしております、ちょっと今日は、あえてこういう場で協議をさせていただくということにしました。以上です。</p>
立石学校教育課長補佐	<p>(資料に基づき説明)</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。幾つか質問ですけど、供給能力のところで、生徒数のピーク＝食数のピークというふうに今捉えているんでしょうかというのが一つ。それから、最後のところで「平成30年度で39都道府県において実施率90%以上」ですけど、これは何で47都道府県ではないのかな。47都道府県ではどうなんですか。</p>
立石学校教育課長補佐	<p>はい。ピーク時についての考え方なんですけど、ピーク時については生徒数見込みと考えております。生徒数のピーク自体は、令和4年度、3年後ぐらいに中学校の生徒数としては2,179人ぐらいになるんじゃないかということで見込んでおりますけれども、給食の申し込み率の方が徐々に伸びているということをお考えしまして、そういうものを勘案いたしますと、実際の提供食数の最大というのは令和6年度、5年後になるんじゃないかと考えております。令和6年度が2,060人ぐらいの生徒数に対して、申込率が75～6%ぐらいまで伸びてくるんじゃないかと。そのときに、平均食数的には2,000人に対してのおおむね75%ということであれば、1,500～1,600食になってくるんですが、月によって申し込みの数が増えたり減ったりいたします。ですので、一番多い月にその数に対して工場がどれだけ対応できるのかというのを見ないといけませんので、令和6年度においては最大数としては1,700食を超えるぐらいの数になるのではないかと考えております。</p> <p>それと、全国的な傾向の先ほどの39都道府県という言い方をしたんですが、これは私の書き方も悪かったのかもしれないけれども、要は47都道府県ごとにこの県は95%、この県は97%と、そういうのを書いてあります。その数を見る中で、90%を超える都道府県が39あるという意味で書いております。</p>
橋本市長	<p>最高と最低はどのぐらいなんですか。</p>
立石学校教育課長補佐	<p>公立中学校の完全給食の実施率で、一番低いところはもう極端なんですけど、京都府の37.7%で関西地区がおおむね低いような傾向があります。兵庫県が60%でしたり、滋賀県が54%でしたり、関西地区が特に低いイメージがございます。高いところになりますと、99%以上というようなところが幾つもございます、例えば北海道が99.4%、埼玉県99.4%、新潟県99.1%とか99%台の都道府県も今一</p>

	<p>覧表をざっと見て中なんですけれども、6か7ぐらいあるような感じでございます。状況としてはそのようになっております。</p>
橋本市長	<p>京都はどのような方式をとられてるんですか。</p>
築地学校教育課主査	<p>はい、失礼します。容器会社に聞いたところ、やっぱり関西地区は選択制弁当が多いということで、容器の補充プラスアルファの購入がとても多いということで聞いてます。なので選択制が主に半分以上なのかなっていうところでは思ってます。京都と大阪が50～60%は選択制ということでお聞きしてます。</p>
立石学校教育課長補佐	<p>すいません、1点訂正です。一番低いのは神奈川県が33%です。ただ関東地区では他は埼玉県、千葉県とかが99%を超えてますので、関東地区はおおむねどこでも95%を超える中で、なぜか神奈川県だけ低いような状況になっております。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。それと、完全給食に向けての課題のところではさまざまな運営方式、提供方式等々書いてありますけど、これを例えば、コスト比較で試算をしたことはあるんでしょうか。特に教育関係はお金のお話が出てこないんですよ。用地が必要で、エアコン必要ですというのはいいんですけど、お金の話が全く出てこないで、じゃあそれぞれのお金をどういう順番でどういう優先順位でどの程度振り分けていくかっていう議論が全くされてないので、そこはやはりぜひコスト比較をしていただきながら、今生徒数のピークと食数のピークと言いましたが、どこら辺の食数にターゲットを合わせて設備をつくらなければいけない、じゃあその時に用地的にはこのくらい、建物としてはこのくらい、設備としてはこのくらい必要なんですよということがなければ、それはやったほうがいいでしょうって話にならないような気もしなくはないです。ぜひですね、そこら辺はとても重要だと思っております。</p>
立石学校教育課長補佐	<p>費用比較ということで、昨年度いくつかのパターンということで5パターンぐらいに分けて金額を弾いたことがございました。パターンの的には土地・建物全て新築をした場合のパターンですとか、あるいは現在の用地を市で購入して、今の業者にその土地を貸して委託をするパターンですとか、現在の用地を業者が購入して今の業者がまた委託を受けたパターンとか、5パターンぐらい計算しております。今、その中ではコスト的には現業者が今の土地で今の施設を改修して完全給食にもっていくというような場合が一番安いんじゃないかということで比較の結果ではなっておりました。</p>
橋本市長	<p>それは借地でということ、それとも購入をしてということですか。</p>
立石学校教育課長補佐	<p>購入のパターンと借地のパターンと考えたんですが、今の土地が令和10年度までしか使えないという前提で弾きましたので、今の土</p>

	<p>地を今の業者が直接購入して、自前の土地として使うパターンと、これは仮の話なんですけど、市が購入して今の業者に貸す場合のパターンと2パターンを考えております。その場合において業者が買った場合というのも、土地自体は市の財産になりますので、そのことについては運営費の方に跳ね返ってこないということを想定して計算をいたしました。借地の場合ですと、今の借地料と同じような金額を貸し代ということで取るようなパターンということで想定して比較をいたしました。今の土地を市で購入して今の業者に貸与した場合、年額1億440万円程度です。今の業者が土地を購入して委託する場合は1億720万ぐらいです。</p>
橋本市長	<p>それで、今の選択制弁当方式との比較検討は。</p>
立石学校教育課長補佐	<p>令和6年度で最大食数を迎える場合で考えたんですけども、昨年弾いた金額からちょっとまた、人件費等の伸びとかを考えて少し金額が変わっております。令和6年度において今の選択制弁当給食を続けた場合として、年額1億882万円、今の業者が食缶方式で提供した場合が1億772万円、逆転するような形になるかと思っております。食缶方式ということで安く済むような部分もございますので、完全給食の方が安くなるというような試算で考えております。</p>
橋本市長	<p>はい、どうぞ。</p>
古澤教育委員	<p>現在受託されてる業者さんの契約は単年ですよ。そういう業者さんが用地まで取得してやると言ったら、よほどの担保や契約の見直しをしないことには、実際問題、底地買って事業継続していきますっていうのはなかなか難しいかなと思っております。可能性としては市が購入して建物をどうするかという感じがあるのかなと思っておりますけど、もう一つは令和10年までで目途をつけるということで、購入するのと借地料払っていくのと、その比較検討も必要なのかなというふうにも思いました。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。多分受託する側から言わせると、やっぱり設備とか建物の償却を考えれば、20年ぐらいは最低でも受託しないとやってられませんよね。はっきり言って。誰も取れるかどうか分からないものにお金を投じませんから。だから、そこら辺は非現実的な机上の話でしかないような気がしていて、あと令和10年3月までの借地期間ということですけど、これは延長の可能性はあるんでしょうか。底地は確かJAさんの持ち分だと思いますが、JAさんの基本方針として遊休資産を売っていくというふうに聞いておりますが、買ってくれと言われてるんでしょうか。それとも、まだ有効利用を自分たちで考えたいので、もうそこまで出て行ってちょうだいねというふうに言われているのか、そこら辺はいかが</p>

	でしょうか。
白水教育次長	J Aさんの土地の関係ですけれども、今市長がおっしゃられたように、遊休資産についてはJ Aさんの基本方針は売却です。その方針は変わっておられません。それに関しまして、市長と教育長名でこの10年経過以降も引き続き借地を継続してほしいという申し入れをしておりますけれども、10年先はどうなるか分からないということで、明確な返事をいただいております。土地に関してはそういう状況です。
橋本市長	はい、ありがとうございます。生徒さんは、やっぱり親の作ったお弁当が良いっておっしゃるし、親は給食にしてほしい。ここはもうずっと固定的に変わらないんですね。ですからこの思いに寄り添えば、今の選択制弁当方式でいった方がいいかもしれませんし、鳥栖の独自性を出すのかですね。
白水教育次長	はい。今の学校に提供する方法としましては、食缶方式、子供たちのランチョンマットと箸・フォーク類は持参していただくという方法を考えております。それと洗浄の場所が必要ありませんので施設をいじる必要がないということと、もう一つ学校施設をいじる必要がなくなりますので、今のまま受け入れができます。できることならばワンプレートで持って回る、要は食器類を複数にしてそれを取りにいくのではなくて、一つのプレートで終われば洗浄の負担も軽くなりますので、その辺りも今業者と話をしているところです。できるだけ負担が軽いように、それから経済的な負担も軽いようにですね、特に学校施設をいじることがないようにということで進めています。以上です。
橋本市長	はい、ありがとうございます。確か選択制弁当方式の議論がなされたときに、お昼休みの時間の効果的な利用方法ということで、弁当の方が短時間で配食ができるので、食缶よりも弁当の方が望ましいという議論があったと思いますが、そこら辺はこの食缶方式っていう検討になったときにどうなんですか。昼休みをもうちょっと長くしないと耐えられないとか、大丈夫ですか。いかがですか。
天野教育長	当時、時間的なことについて話が出たということは聞いてますし、例えば佐賀市あたりはこの選択制を進めますと。他市は全て完全給食ですから、佐賀市は新たにどうするかと。選択制を今言われたように保護者の思いを伝えるなど、そういうことでその意義も分かるし、時間的なものについては、確かに小学生と違まして中学生は食べるのが早いので対応もできますし、昼休み時間などについての時間の対応もそんなに思っておりませんが、中学校出身の中島課長、どうですか。

中島学校教育課長	<p>実際今教育長が話をしたように、小学校と比べるとやはり子供たちの成長があって、時間的な部分というのは余り考えなくていいのかなというところで感じます。</p>
橋本市長	<p>ほかに何かございますか。給食について、やはり方向性としては完全給食に向けて進んだ方がいいというお考えなんではないでしょうか。やはり全庁的な資金需要のこともございますので、一定の前提条件をおいたところで、市全体の動きに合わせてどこら辺になったら入れていけるのかというようなことも含めて、検討いただけたらというふうに思っております。その上でまた具体的な議論ができたというふうに思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>では、3番目の文化財の保存と活用について、説明よろしく願いいたします。</p>
久山生涯学習課 文化財係長	(資料に基づき説明)
橋本市長	<p>鳥栖市としての具体的な今後の計画は、どういうことになってるのでしょうか。</p>
久山生涯学習課 文化財係長	<p>もちろん全体の流れとしては、いずれはこの文化財保存活用地域計画っていうのを作っていかねばならないと思います。ただこれは1、2年で出来るものではなくて、3年から5年、もっとそれ以上になると思います。ただ、幸い本市は鳥栖市誌というものをまとめましたので、地域の文化財の総合的な計画というのはある程度進んでおりますが、これを構成する上で、官民協働を原則とされておりますことから、そういったものを育成していくというようなことが出てくると思います。そうした中で、勝尾城も含めた地域全体で文化財を活かしていこうという地域計画を立てて、それに基づいて総合的に進めていくということになります。</p>
橋本市長	<p>今勝尾城のお話もありますが、確か勝尾城はワークショップをされましたよね。その後のフォローアップはどうなってるのでしょうか。</p>
久山生涯学習課 文化財係長	<p>そういった官民協働の流れということで昨年5月、6月に勝尾城のワークショップを行いました。これは今まで勝尾城の保存活用というものが行政主体でやったものですから、やっぱり民間や一般の方の視点がぜひ必要だということで取り組んだこととございます。昨年は座学的な形での意見交換、こういった希望というものをとりました。その後、今年度の秋以降に予定しておりますが、今度は実際の現地でここはこうだとかそういったものを進めていこうと計画の準備中とございます。昨年のワークショップの効果としていただいたのが、簡単な看板とかそういったものはできるところからやっ</p>

	<p>ていこうということで、昨年度もかなりの数の手づくりの看板をつくるなどの取り組みをしました。</p> <p>これまでの取り組みと今後の予定ということで御説明をしましたが、文化財の保存と活用、これについて何か御意見、御質問等ございましたらお願いしたいと思います。</p>
天野教育長	<p>はい。今回クロスロード文化研究会であるとか、筑後川流域クロスロード協議会であるとか、広い範囲の中でのこういう取り組みが行われているということで、ちょっと私も不勉強でしたがこういう活動があつてっていうことも含めて、すばらしくもっと広げていくべきだなというふうに思いました。</p> <p>ちょっと話は変わるんですけど、昨年古野町の収納庫を開放するというので、3月の2、3日あたりでしていただいたときに、PRをしっかりとらたくさんの方々が収納庫に入ってこられたんですね。2日間で、やっぱり行かれた経験がある方々っていうのは非常に興味を持ってあるんだということで感心をしました。そういう意味でも、まずは地元のそういったところの活用とか、もちろん図書館の方で展覧をしていただいているんですけども、何かもう少し地道なところでいろいろ活用ができないか、もっとPRできないかというふうに思ったら、今日ご存知のように西日本新聞に大きく取り上げてあったので、荒木さんは取材をしっかりとられて、新聞に書かれていて、読んだら魅力的に書いてありました。もちろんこういった筑後川クロスロード地区はこうすると、そういったことも含めてまずはしっかりと取り組んでいけば、もっとPRもでき、非常に上手く鳥栖市のことも知っていただくことができるんじゃないかなと思います。</p> <p>そういえば、ふるさと鳥栖ということで、子供たちへの教育にもつながっていくということを含めて、去年は市長が言われたようにワークショップなどもしていただけてますけど、スムーズにうまくできないか、イベントも含めてできないか、そんな感じで最近見てみました。以上です。</p>
古澤教育委員	<p>昨年11月だったでしょうか、教育委員会の中でも勝尾城の葛籠城跡の方に担当の方に付いてきていただいて、きっちりと説明をしていただきました。その時にいただいた資料です。なかなかいいものを作ってあるなと思ってるんですけど、私の地元でもあるし、もう自分の生活エリアのわずか2キロぐらいのところにこれだけの遺構があったのかというふうに、びっくりしました。写真もいっぱい撮らせてもらって、これを整備するには市長が言われるように財源が問題になってくるかもしれませんが、1年2年先じゃなくて、</p>

	<p>一定のスパンをかけてでもいいですので、一定の整備をした上でしっかりと鳥栖市の財産ということで、まずは市民の方に周知をしっかりとさせていただけたらと思います。今でも取り組みをされているのは報告を聞いてますので分かっておりますけれども、もっとされると身近なものとして感じられるのかなと。実際、戦国時代は今のフレスポの辺りまで古戦場みたいにして戦いがあってたとかいう話もされてましたし、そういった話をしてたら、たまたま私はよその分の委員もさせてもらってるんですけど、そこの方も実は葛籠城のボランティアガイドをしている方もいらっしゃるんですね。地道にそういう協力を惜しまずにしてくださってる方もいらっしゃいます。</p> <p>これだけに限らず、国の史跡の指定を受けてる有名な太田の古墳ですけど、装飾古墳という部分なんかをきちっとリンクさせながら、いっぱいお知らせする部分はあると思うんですね。私から言わせるとまだお宝半分眠っているような状態に見えなくはないので、担当の方はしっかり頑張ってるのはよく分かってるんですけど、そこら辺をうまく連携して掘り起こして、学校でも授業をされてるのも分かってますし、やはり将来的には子供さんたちが地元で愛着を持って関わっていただくというのは大事なことじゃないかなと思ってますので、しっかりと継続して、やっていっていただきたいというこれはエールでございます。よろしくお願いします。</p>
橋本市長	<p>ありがとうございます。ちょっと付言をいたしますと、昨年幕末維新博があって、その流れの中で歴史講演をしていただきました。そのときに、講師の方に来てくださってというだけでは来ていただけないだろうと思って、勝尾城の資料を先にお届けをしました。こういうのもありますから、別に御案内をいたしますのでぜひ見に来てくださということに来ていただいて、そしたらもう麓に着いた途端かけ上がっていかれました。大変驚かれておまして、そこで教育委員会の方にはメモ配っておりますけど、御指摘いただいたのが、この勝尾城遺跡というのは申請すれば特別史跡には多分すぐ指定されるということです。ただ、申請が認められるともう一切手が加えられないので、それ以前にしっかりと指定に耐えうる調査・保存をしておくというのをやった上で、今度は観光面っていうか、アピールするためにどう手を加えて歴史を分かりやすく表現してあげるか、そこまでやった上で申請をされたらどうですかと。</p> <p>例えば、御指摘あったのが、空堀がありますけれども、空堀をV字型に掘って行って、結構今このぐらいの幅で底があったけれど、恐らく1番先端はですね片足ずつしか入れられないぐらいの細さ</p>

で削ってあったはずだと。1人しか通れなくしてあって、結構厳しく攻防ができるようになっていたはずだと。例えば空堀の上に何十体か、人形を置いて、這い上がろうとする人はこうやってやろうとする、それを並べておくとかですね。あるいは今VRがありますから、あそこに行ってやると戦のシーンが見えてくるとかですね。何かそんないろんな魅せる工夫をすることによって、それから、例えばあの近辺で差し支えないところで桜の名所とか、四季折々に遺跡じゃなくて違う目的でも来れるような仕掛けをしておいて、いや実は近くに遺跡があるんですよという御案内をして、興味のない人を引きずり込む仕掛け、それからあとこれも差支えのない範囲でやっぱり木の伐採をして、どうしてあそこに勝尾城を設けたか、あそこに立てば筑紫平野が展望できる。だから、ここに山城を作った理由というのは、ここなんだというのが分かるようにしなさいとかさまざま具体的な御指摘をいただいております。

それで、あともう一つ弥生が丘がありますが、弥生が丘は確か中後期ですよ。鳥栖にある遺跡は、弥生前期というのは、小郡市に住んでたらしくて、そこに住んでる人がだんだん弥生が丘の方に来て、それから鳥栖スタジアムの方まで行ったんですね。だからそこは小郡と鳥栖っていうのは、文化的にも非常に昔からつながりがあるし、あともう一つということで行くと、脊振山系は南面に、この山系の南面に装飾古墳がたくさんあります。だから、やっぱり弥生が丘後古墳等々、時代は全然違いますけれども、さまざまな歴史遺産があるので、一つのルートとして検討するのもおもしろいねという話があって、それでちょっと小郡の市長とお話をして今年から鳥栖の大庭さんが小郡市の文化財の方に行っていたいて、小郡市文化財の龍さんが鳥栖に来ていただいて、人事交流をしてそれぞれのよさをもう1回、別の視点で見直しをして、それぞれが今まで積み上げたものの活用をどういうふうにしていくのか、あるいは、地域連携をしながら、線とか面とかっていう感じでの広がりを持ってアピールすることによって、この地域を感じていただく取り組みができないかということを探求していこうということによってしております。ですからその意味では、やはり稀有な勝尾城という遺跡があるということと、その弥生時代など古墳とかもろもろ時代ごとにさまざまな要素がありますから、そこをじゃあどう組み合わせ、人を寄せていく仕掛けをつくるのかというようなこともちょっと検討をしていけたらなと感じておまして、そこが折々にその学校の中でもありますね、そういうお披露目をするによって感じていただけることができればいいかなと。

	<p>今回幕末維新博に合わせて副読本もつくりましたので、ああいったものを活用していただきながら、副読本は委員さんにはお渡ししてるんですよ。はい、すぐ用意して、今日帰りにはお持ち帰りいただけるようにぜひお願いします。私ばかり言ってもしょうがないんで、一応、そういう考え方でさまざま取り組みをしておりますという御紹介をいたします。</p>
天野教育長	<p>一昨年ぐらいからですね、よく学校の方にも出かけていただいて、教育プランの中にもきちっと起こしていただいて、去年は6回やったんですかね。小学校中学校でお話をしていただいたということで、そういう評価目標のもとに実施していただいているということです。実際、勝尾城は教科「日本語」の中にも、鳥栖市のお城を調べようということで出てます。そういった意味でも、さっきから話があったように今回の150周年の副読本は良いのができてるんですよ。お渡しできてなくてすいませんでした。この前も実際にやったんですけど、あれを使ってこっちにお見えになった先生方にお話をするとか、そういうふうにやっぱりふるさとの誇りを持つという、鳥栖市の教育目標に向けて文化財も一生懸命頑張らせていただけてます。今後もしっかり続けていきたいというふうに思ってますし、その起爆剤はやっぱり勝尾城だろうと思います。もちろん、弥生のいろいろな古墳もあるんですけどね。だからそういうふうなことで、しっかり先生方にも今話をしているっていう状況ですけど、よろしくお願ひしたいというふうに思ってます。以上です。</p>
橋本市長	<p>ちなみに幕末維新博の時に作った副読本は、対馬市にも小中学校とか図書館に置いていただくため、320冊お届けをしております。では、1番・2番・3番通しても結構ですので、言い漏らしたこと、あるいは聞き漏らしたこと等ございましたら承りたいと思います。皆様の方から何かございましたら。</p>
天野教育長	<p>中学校給食の完全給食に向けていろいろ御指導いただきましたし、いろんな話を聞かせていただいて本当にありがたいと思ってます。一番成長が著しい中学生にしっかり健全な食生活で健康な心身を持つという意味でも行いたいというものが強かったし、それから、今の貧困家庭の状況を見たときに、やっぱり給食でしっかり栄養補給させてやりたいという思いもあります。いろいろ総合的に判断をして、市の財政面も含めてですね、しっかり取り組んでいきたいというふうに思ってます。今後ともまたよろしくお願ひ申し上げます。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。若楠の先生のお話で食育っていうのはみんな履き違えていると憤ってらっしゃいました。栄養面とか食習慣とかそっちばかり言っていて、食って楽しく食べるもんだ</p>

よねっていう根本的なところが忘れ去られているんじゃないかという話をされていました。やっぱり食缶方式というのは一つのをみんなで分け合って楽しく食べる、ここが原点じゃないのということをおっしゃってました。結構食育って打ち出しても食習慣とか栄養とか、あるいは地産地消とかそっちばかりで、食べることの楽しさっていうのをまず最初にやるべきだろうということをおっしゃってまして、ぜひそこら辺も考えながら進めていけたらと思っております。

それでは、今日の総合教育会議を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。